

暑さが厳しい季節になりました。今号の特集は、「臨床現場での脳・脊髄連関」です。実は臨床現場での脳と脊髄疾患診断のピットフォール集でもあります。なるほどと思えることが多い好企画と感服しました。また、今号で特に目を引いたのは、岡田英次朗先生、松本守雄先生共著の「MRIにおける頸椎加齢性変化に関する縦断的研究」です。このレビューは、MRIを撮像した無症候性健常者と外傷性頸部症候群の患者さんの大規模なコホート研究で、約10年後にMRIを再度撮像した所見の変化を観察した研究が基盤になっています。そして慶應義塾大学整形外科のすばらしい成果がレビューされています。

私たちは、日常診療において比較的簡単にMRIをみて加齢性変化について説明していますが、「EBMはありますか？」と質問されて堂々と説明できるのでしょうか。実はわかったようでわかっていないのが、MRIの所見でした。彼らの研究成果で、以後少しは自信をもって説明できるようになった気がします。MRIの人類に対する貢献は大きいですが、いまだ値段の高い検査であることに変わりはありません。日本はおそらく患者さんが実際に負担する金額では、世界で一番安い価格でMRIが撮像されていると考えます。しかし、脱出椎間板ヘルニア塊の自然消失を確認しようとする、患者さんは値段の高い検査で、撮像にも予約する手間と撮像時間がかかること（撮像時間は導入当初よりかなり短くなりましたが）ともう痛くないからと、辞退されることが多いのも現状です。その意味でも、しっかり十分な研究資金を確保して、粘り強く縦断的にMRIを撮像した関係諸氏のご尽力には脱帽します。そして、その他の研究結果と合わせ、このレビューを掲載していただいた松本守雄先生には読者のひとりとして心から感謝しています。

今から20数年前にMRIを用いて転移性脊椎腫瘍の術後再発を検討する論文を欧米誌に投稿した際、すぐにレジェクトのお返事をいただきました。「このような高い検査であるMRIを複数回撮像するような不経済的な論文は、社会的に問題があり掲載できない」という理由でした。今、現実には手術時MRIのアーチファクトの少ないチタン合金製インプラントを使用して術後の再発を見張ることは当たり前のことになりました。このようなことも思い出しながら、拝読させていただきました。

今年の夏の暑さは例年に増して厳しそうですが、読者の皆様お体ご自愛ください。

(徳橋泰明)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

戸山芳昭（編集委員長）
青木茂樹 安藤哲朗 金 彪
園生雅弘 高安正和 田口敏彦
谷 論 徳橋泰明 花北順哉
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志
米延策雄

Vol. 28 No. 7

(2015年7月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,300円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 30,700円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となる場合がありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2015,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。